

初段

硬筆検定試験問題 (60分) (第105回 令和4・11)

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

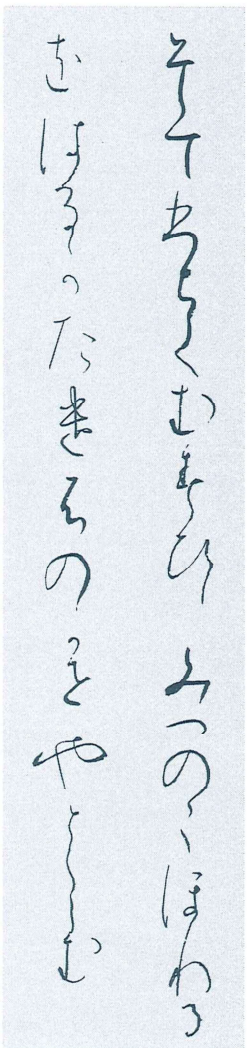
白 露 天 地 秋

問二 次の『礼器碑』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(青龍在湊歎)

問三 次の『高野切第一種』を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(そでひちてむすびしみづのこほれるをはるがたけふのかぜやとくらむ)
悲 互 春 可 遣 不 可 世

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

自分は一番大きいのを選んで、勢いよく彫り始めてみたが、不幸にして、仁王は見当たらなかった。その次のにも運悪く掘り当てることができなかった。三番目のにも仁王はいなかった。自分は積んである薪を片っ端から彫ってみたが、どれもこれも仁王を隠しているのではなかった。

(夏目漱石「夢十夜」より)

問五 次の□内の揭示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小を考えて、フェルトペンか、筆ペンで書きなさい。(縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい)

- 期日 令和四年十一月二十三日(水)
- 会場 宮崎県立美術館
- 第五回 中学・高校硬筆コンクール
- 主催 宮崎県硬筆検定委員会
- 後援 宮崎県書道協会